

10 公益総合研究センターの活動

I. 公益ビジネス研究プロジェクト

1. 補助金事業：創造都市デザインセンター研究支援事業

実施者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

実施期間：平成 26 年 5 月 2 日～平成 27 年 3 月 31 日

契約金額：2,000,000 円（税込み）

事業目的及び概要：

食文化をテーマとした創造型まちづくりに取り組み、地域の関係組織や専門家ネットワークによる開かれたまちづくりの場を創出するとともに、情報や研究プロジェクトの共有・交流を通して地域課題に対して創造的な解決をもたらす。

(1) 公開シンポジウム等の開催

「内川学6『内川』と『まち』を考える」

日時：平成 27 年 2 月 28 日（土）13:00～16:30

会場：東北公益文科大学鶴岡キャンパス 大学院ホール

主催：東北公益文科大学公益総合研究センター公益ビジネス研究プロジェクト

山王まちづくり株式会社

鶴岡舟番所

基調講演：高谷時彦特任教授

「歴史に学び未来を見つめる公益ビジネス」

研究発表：國井美保公益総合研究センター学外研究員

「昭和初期の三日町・十日町のまちなみと人々の暮らし」

活動報告：鶴岡舟番所 佐藤功、佐藤麻都香

「藻狩りについて」「舟下りについて」

パネルディスカッション：空き家を「場」に変える ～富山県高岡市に学ぶ～

(2) 意見見交換会の開催

日時：平成 27 年 3 月 30 日（月）

会場：東北公益文科大学鶴岡キャンパス 中教室

社会的企業の研究者チャップマン教授（ダーラム大学）が来鶴し、「社会的企業は地域活性化でどういう役割を果しうるのか？」というテーマのもと、恵比寿屋プロジェクト参加者と意見交換会を行った。チャップマン教授は庄内地域の社会的企業の多面性に着目、プロジェクトにも多くの示唆に富む助言をうることができた。

II. ニュージーランド研究プロジェクト

1. 補助金事業：平成 26 年度公益のふるさとづくり活動補助金

「庄内地域の防災について考える ～カンタベリー地震の復興政策に学ぶ」

実施者：ニュージーランド研究プロジェクト

委託者：庄内開発協議会

実施期間：平成 26 年 12 月 17 日～平成 27 年 3 月 31 日

補助金額：200,000 円

事業目的及び概要：

カンタベリー地震の発生から 4 年が経過した今、東日本大震災の復興プロセスに対する示唆を得るとともに「庄内地域の防災について考える～ニュージーランド・カンタベリー地震の復興政策に学ぶ」と題した公開シンポジウムを開催する。また、このシンポジウムの内容を『ニュージーランド・ノート』の特集号として発行し、広く地域社会に還元する。

(1) 公開シンポジウム「ニュージーランド・カンタベリー地震の復興に学ぶ～庄内地域の防災について考える～」

日時：平成 27 年 2 月 11 日（水・祝）13:00～16:00

場所：東北公益文科大学酒田キャンパス 中研修室 2

内容：研究報告

1. 植村善博佛教大学教授「クライストチャーチの震災と復興計画」
2. 近藤真岐阜大学教授「ニュージーランドの非核政策と原発問題」
3. 武田真理子本学准教授「生活支援の視点からの復旧・復興」

特別講演

宮崎智世 駐日ニュージーランド大使館大使付エグゼクティブ・オフィサー、学外研究員「東日本大震災被災児童自立支援プロジェクト『Support Our Kids』：ニュージーランド大使館としての取組み」

パネル・ディスカッション「ニュージーランドの震災復興に学ぶ」

パネリスト：宮崎智世氏、植村善博氏、近藤真氏、武田真理子氏、

コーディネータ：和田明子本学教授

(2) 『ニュージーランド・ノート』第 17 号の編集

第 15 号から電子版で作成し、ISSN を取得するとともに、ゆうキャンパスリポジトリ（学術成果発信システムやまがた）にも登録するなど、学術的意義と社会的周知・活用度の向上に努めてきた。

第 17 号は、補助金を受けて実施したシンポジウムの特集号として特別に冊子体で発行し、内容は以下のとおりとしている。

【巻頭言】

・遠山茂樹（東北公益文科大学教授）

【シンポジウム報告】

- ・「ニュージーランド・カンタベリー地震の復興に学ぶ～庄内地域の防災について考える～」の開催について

【研究報告】

- ・「2011 年震災におけるクライストチャーチ復興計画とレッドゾーン問題」 植村善博（佛教大学教授・ニュージーランド学会会長）
- ・「ニュージーランドの非核政策と原発問題」 近藤真（岐阜大学教授）
- ・「生活支援の視点からの復旧・復興」 武田真理子（東北公益文科大学准教授）

【特別講演】

- ・東日本大震災被災児童自立支援プロジェクト『Support Our Kids』：
ニュージーランド大使館としての取り組み
宮崎智世（ニュージーランド大使館大使付エグゼクティブ・オフィサー）

【パネル・ディスカッション】

- ・「ニュージーランドの震災復興に学ぶ」

【研究ノート】

- ・「カンタベリー地震復興庁をめぐる 2014 年の動向」
和田明子（東北公益文科大学教授）

【編集後記】

- ・活動報告

2. 研究会の開催

（1）第 38 回研究会

日時：平成 26 年 5 月 16 日（金）18:30～20:00

場所：東北公益文科大学酒田キャンパス 中研修室 2

内容：研究報告 1 山岡道男（学外研究員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、博士（学術）「1 年間の在外研究を終えて：オークランド大学ニュージーランド・アジア研究所での研究活動」

研究報告 2 山岡テイ（情報教育研究所所長、立正大学・大学院非常勤講師、文学博士（心理学）「ニュージーランドの小児病院における医療保育士とボランティアの活動：オークランド・マヌカウ・ウェリントン・クライストチャーチでの調査報告」

（2）第 39 回研究会（日本ニュージーランド学会・ニュージーランド学会との合同研究会）

日時：平成 26 年 10 月 11 日（土）13:00～16:30

場所：岐阜大学地域科学部

内容：塩田晴康（ニュージーランド学会）「香りの分析研究から NZ へ」

山岡道男（日本ニュージーランド学会）「写真と動画で見るピーター・バック（テ・ランギ・ヒロア）：現地調査」

和田明子（東北公益文科大学ニュージーランド研究所）「キー政権下の公的部門改革」